

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	南足柄市立南足柄小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	3	4	3	25	35
児童数	144	110	123	127	105	128	7	744	

研究の概要

1. 研究主題

<p>(1) テーマ 基礎基本や自ら学び自ら考える力を身につけるための指導の工夫 個に応じた国語科・算数科の指導を通して</p> <p>(2) テーマ設定の理由 本校では、学力を、子どもたちが変化の激しいこれからの社会に生きていくことにかかわって考えていくことが大切であるととらえている。 そのためには、学力を学習指導要領に示された内容として総合的にみることが必要であり、それを踏まえて、 情報伝達、生活の道具としての学力(読み・書き・計算) 社会や自然、人間を認識したり思考したり表現したりする学力(国語科・算数科・生活科・社会科・理科・音楽科・図工科) 学習の過程で身につける学ぶ資質 意欲・問題解決能力・向上心・継続力などととらえ、これらを児童に確実に身につけさせることが必要である。 こうした考えのもとに、『確かな学力の向上を図り、学ぶ意欲を高める授業への転換』を今年度の重点のひとつとし、 協業組織、少人数授業、TT、教科担任制等の積極的な導入を図り、知識・技能の確かな定着と、思考力・表現力等の能力の育成 学習態度 習慣 学び方の徹底 子どもの願いと教師の思いが調和した体験的・問題解決的な学習のための指導の工夫・改善を内容として掲げた。 これらの実現のために、『基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身につけるための指導の工夫』を研究テーマとして掲げ、“個に応じた・きめ細かな”をキーワードに、国語科・算数科を切り口としてサブテーマを設定した。</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

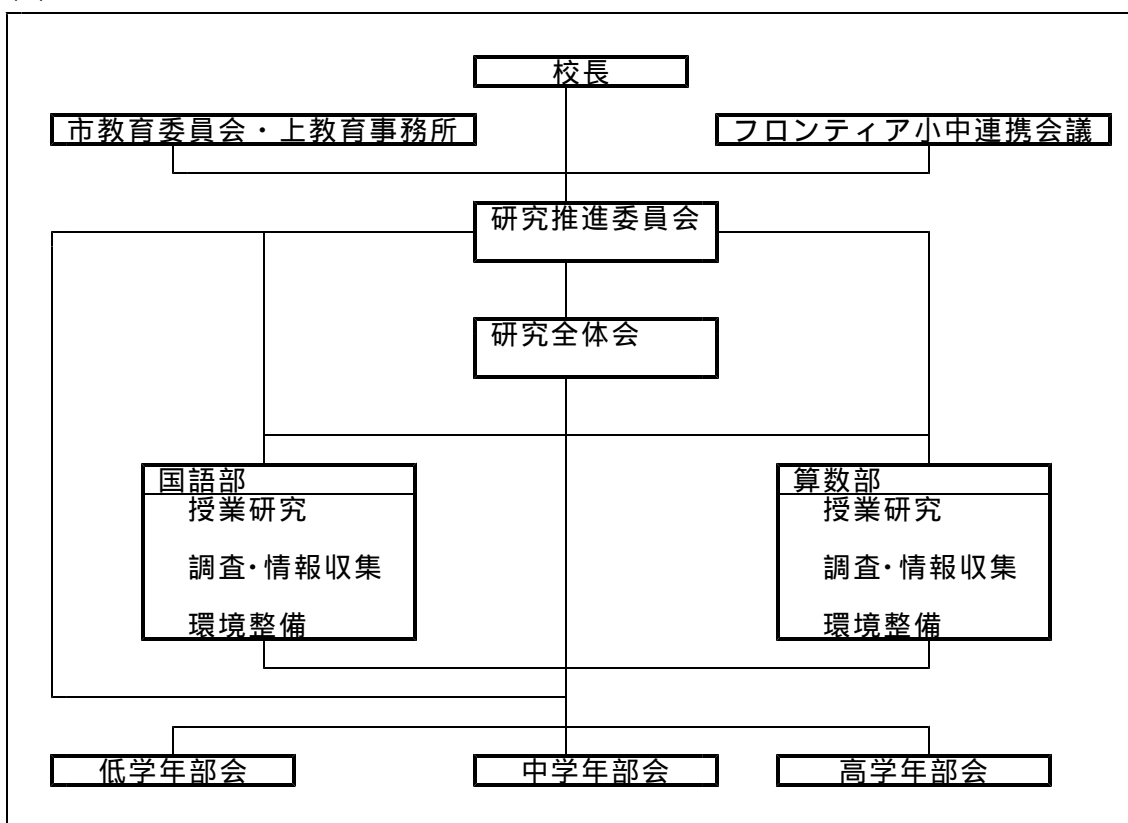
<p>・全学年・国語科 国語科は、情報伝達・生活の道具として基礎となるだけでなく、他の教科の基礎や、ものごとをとらえるための論理力の育成が必要とされている。また、学年ごとの積み重ねも必要とされる教科であるので、全学年で取り組む。</p> <p>・全学年・算数科 算数は、積み重ねが必要な教科であり、学年がすすむにつれて、わからないという児童が増えている。しかし、つまづいているところに指導の手が加わるならば、理解がすすむことも事実である。また、これまで、TTで算数の指導を行ってきたという実績がある。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>学力について児童の実態をつかみ、問題点を明らかにする。 少人数指導や TT、習熟度別指導の効果的な経営と、一人ひとりの理解や習熟の程度に応じた授業実践を行う。 個々の教師の持っている基礎基本の確かな定着をめざした指導方法の共有化や、個に応じた指導のための適切な教材の開発を行う。 一人ひとりの基礎基本の定着を見取り、指導に生かす評価の研究を深める。 幼・小・中の連携指導について情報交換を積極的に進め、学習の連続性についての意識化を図る研究を深める</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>課題が明確になるように授業を工夫するとともに、一人ひとりに応じた指導や援助のある授業に努め、児童の授業への意欲化を図る。 基本的な個の学び方や集団の学び方の定着を図る。 一人ひとりの学習意欲を高める指導に生かす評価の研究を深める。 学力について、前年度との比較研究を行う。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 国語科

児童の意識(意欲・関心・態度) H15.6

学年	国語が好きか	授業が分かるか	意見発表の意欲	家庭学習
下学年	85%	92%	67%	85%
上学年	64%	91%	71%	74%

学力の実態(学習状況実態調査による) H15.3

学年	表現	理解	言語事項
5年	64%	59%	80%
6年	67%	65%	80%

- ・児童の意識では、学年が上がるにつれて国語が好きでない児童が増えてきている。また、授業参加の意欲をみる意見発表については、3割近くの児童が意欲的ではない。
- ・学力実態調査から、言語事項については、多くの児童が高い理解を示しているが、内容の読み取りや、書く表現力に不十分さが見られる。
- ・こうした実態から、言語事項の定着・音読・文章の内容把握(読み取り)・書くことの励行を授業に組み入れる指導過程の共有化を図ってきた。
- ・授業の開始5分間の言語指導の時間が定着してきた。
- ・「みどりの広場フェスタ」(学習発表会)では、複数の学年が音読をとりあげた。
- ・ノート指導が話題にのぼるとともに、書く機会を増やす試みが増えてきている。
- ・作文の年間指導計画の作成
- ・学校生活のいろいろな場で書かせる機会が増えてきた。

(2) 算数科

児童の意識(意欲・関心・態度) H15.6

学年	算数が好きか	授業が分かるか	意見発表の意欲	家庭学習
下学年	87%	93%	75%	80%
上学年	77%	89%	75%	78%

学力の実態(学習状況実態調査による) H15.3

学年	数と計算	量と測定	図形	数量関係
5年	53%	48%	46%	48%
6年	58%	67%	75%	50%

少人数指導に関すること H15.6

学年	意見が言える	分かりやすい	教師の声かけ	少人数はよい
上学年	79%	90%	87%	90%

- ・児童の意識では、8、9割近くの児童が算数が好きであり、授業が分かると言っている。また、家庭学習も8割近くの児童が行っている。
- ・学力については、正答率が50%に満たないところもあり、学習内容の確実な定着が必要である。
- ・少人数指導については、児童にとって、好ましいものとなっている。
- ・こうしたことから、一人ひとりの実態を把握することや、児童の意欲を引き出す指導、指導したことの確実な定着、少人数の指導法の工夫などの研究を重ねてきた。
- ・1年から4年までの足し算・引き算、3年から6年までのかけざん九九の定着状況調査の実施。
- ・TT,少人数指導、習熟度別指導などの組み合わせによる単元指導計画
- ・4・5・6年での習熟度別学習への取り組み。
- ・職員の共通理解、児童の理解、保護者の理解、協力
- ・下学年では、発展・基礎・補充を意識した複線のある授業の展開
- ・学習ボランティアの導入

2. 今後の課題

- (1) 国語科
国語科の内容である「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」が有機的に結びつく授業展開の工夫
評価を生かし、一斉指導と個に応じた指導の兼ね合いが工夫された授業の展開
他教科や特別活動、読書など学校生活全般と関連しながら、国語の指導をすすめていく。
・話し方、聞き方は、国語の授業だけでなく、学校生活の具体的な場で、コミュニケーション能力を育成する視点を持って指導していく。
- (2) 算数科
評価を生かし、児童一人ひとりの算数の知識・計算技能の確実な定着
論理力や問題解決能力育成のための授業展開の工夫
発展コース、補充コースの教材開発
- (3) その他
習熟度別学習における指導体制の整備、学習ボランティアの導入整備
学力実態調査の効果的な利用
学習習慣の形成のための家庭との連携

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 学習状況実態調査
・平成16年2月 5年生6年生実施。
・5年生国語・社会・算数・理科 6年生国語・算数
・平成15年3月に実施した国語・算数と、比較検討。現状把握。
- (2) 児童意識アンケート調査
・平成16年6月 全学年実施。
・意欲、関心、態度、習慣等
・平成15年6月実施したものと、比較研究。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・足柄上地区学力向上推進協議会で報告(6月、1月)
- ・足柄上地区指導方法改善研究会で授業並びに提案(10月)
- ・南足柄市教職員研究発表大会で提案(11月)
- ・足柄下地区指導方法改善研究会で提案(11月)
- ・学力向上神奈川県推進協議会で報告(2月)
- ・平成15年度「研究のまとめ」足柄上地区小中学校へ送付(3月)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無